gusuku Deploit ～基本操作手順マニュアル～

gusuku Deploitで基本機能を利用する

※ 本マニュアルは2026年7月に全面リニューアルしたgusuku Deploitに合わせて記載を更新しております。

目次

1.概要

2.注意事項

3.事前準備

3-1.kintoneにスペースを作成する

3-2.開発環境にkintoneアプリを作成する

4.gusuku Deploit でアプリを管理・配布する

4-1.プロジェクトを作成する

4-2.環境を作成する

4-3.kintoneアプリを登録する

4-4.kintoneアプリを配布する（別環境への配布）

4-5.kintoneアプリを配布する（変更箇所を取り込んで反映）

4-6.kintoneアプリを配布する（応用編 / アプリの紐付け設定）

4-7.kintoneアプリの紐付け設定

4-8.gusuku Deploit におけるアプリの管理構造

4-9.設計情報のダウンロード

1. 概要

基本機能を利用すると、kintoneのアプリのバージョン管理や、異なるスペース間、
異なる契約のkintone間でアプリをコピー・移行することが可能となります。
今回は、kintoneで**「開発環境」「本番環境」**という2つの異なるスペースを作成し、
開発環境で動作確認を行ったアプリを本番環境に移行するというシナリオで作業を行います。

2. 注意事項

gusuku Deploit はkintone同様、ブラウザからアクセスして利用するサービスです。
原則kintoneとセットでご利用いただくもので、単体ではご利用いただけません。
また、**kintone API** に準拠して設計されているサービスになります。
kintone APIにおいてサポートされていないことは本サービスでも機能としては実装されて
いませんのでご了承下さい。

gusuku Deploit サインイン画面：

https://app-deploit.gusuku.io/

3. 事前準備

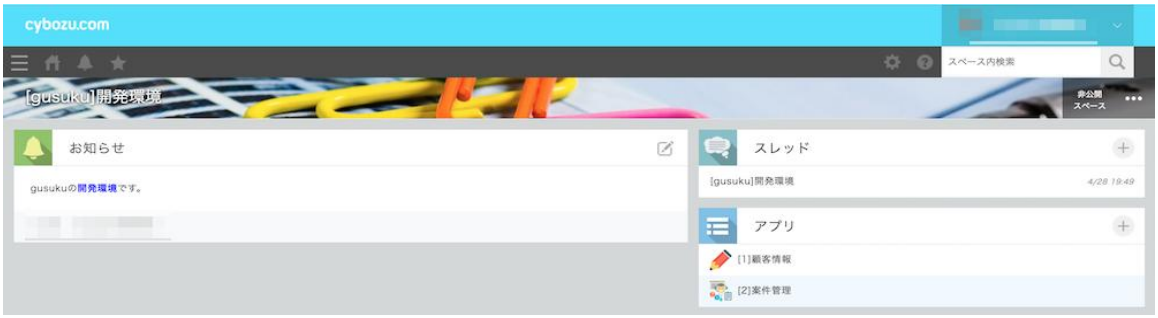
3-1. kintoneにスペースを作成する

以下のようなスペースをkintone上に作成します。
　開発環境： 通常のスペース　/ 本番環境： ゲストスペース

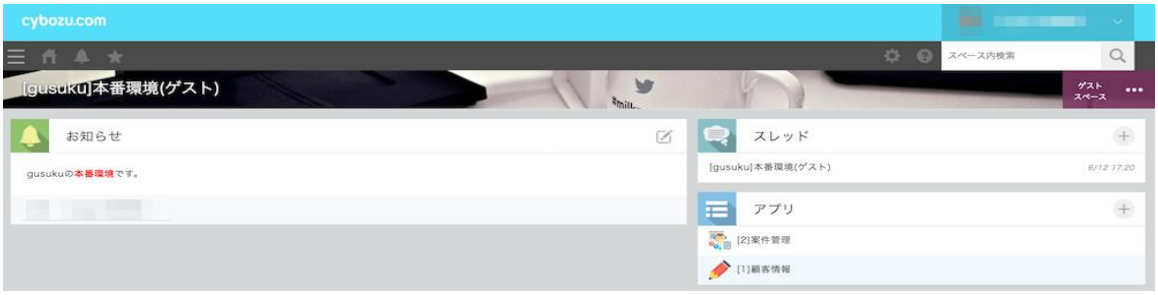
実業務では通常のスペースやポータルであるケースもあるかと思います。

今回は「本番環境」ということがわかりやすいようにゲストスペースで作成しました。

開発環境（通常のスペース）



本番環境（ゲストスペース）

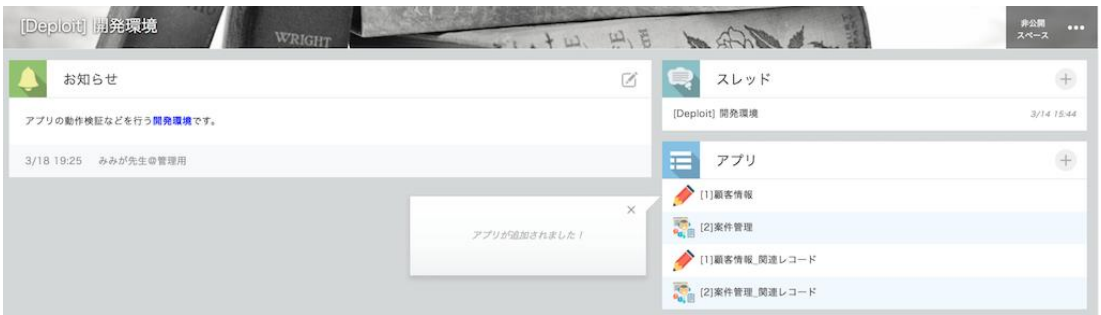


3-2. 開発環境にkintoneアプリを作成する

gusuku Deploitで利用するためのアプリを準備します。

本資料では、ルックアップが設定された、[1]顧客情報アプリ・[2]案件管理アプリを使用します。まず、**開発環境スペース**に対して、テンプレートを使用してアプリを作成します。

図のようにアプリが開発環境に作成できました。



4. gusuku Deploit でアプリを管理・配布する

事前準備で用意したkintoneアプリを gusuku Deploit に登録します。

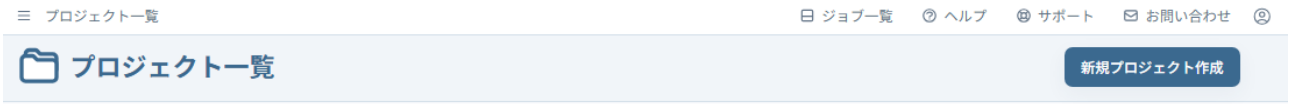
4-1. プロジェクトを作成する

プロジェクトは gusuku Deploit における**kintoneアプリを管理するグループ名のようなもの**です。

命名ルールなどは特にありませんが、例えばある部門などで利用するkintoneのアプリを

gusuku Deploit 上で管理したいということであれば、そのアプリの使用用途やカテゴリなどを

プロジェクト名にしても良いでしょう。プロジェクト一覧画面の「新規プロジェクト作成」のボタンをクリックし、プロジェクト名を新しく設定します。





今回はプロジェクト名を**「営業支援」**としました。

4-2.環境を作成する

環境では gusuku Deploit で管理したい**kintoneアプリがある場所**を登録します。

ここでkintoneのURLが必要になります。環境では**「ポータル」「スペース」「ゲストスペース」**のいずれかを選択して登録する必要があります。

事前にkintoneで、gusuku Deploit で管理したいkintoneのアプリがあるスペースのID、

スレッドのIDを調べておいて下さい。

- ポータルのアプリの場合：スレッドID**不要**
- スペース・ゲストスペースのアプリの場合：スレッドID**必要**
- スレッドが複数あるスペースの場合：どのスレッドIDを指定していただいてもかまいません

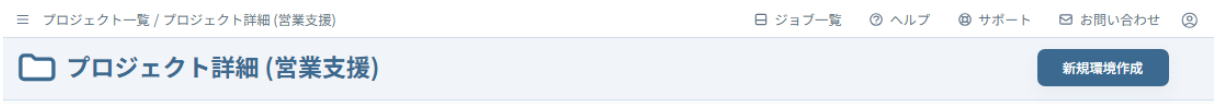
スペースID、スレッドIDの確認方法

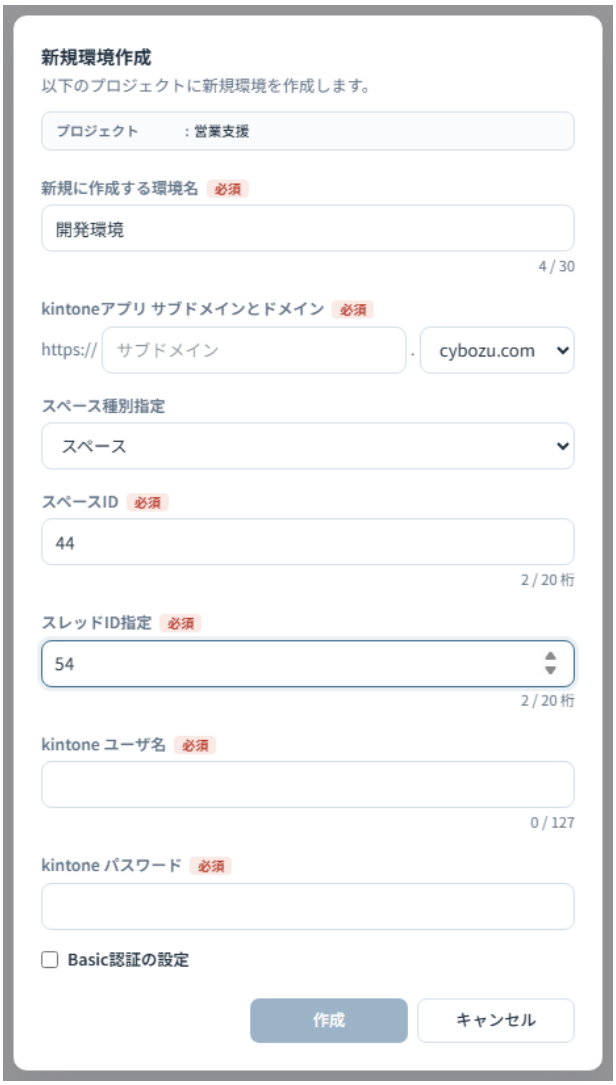
kintoneのURLで確認することが可能です。

例）”https://xxxxxxx.cybozu.com/k/#/space/44/thread/54”のようなURLの場合：

スペースID**「44」**スレッドID**「54」**となります。

プロジェクト詳細画面で「新規環境作成」ボタンをクリックします。





新規に作成する環境名	**開発環境**　※kintoneのスペース名と合わせておくとわかりやすい
kintoneアプリサブドメインとドメイン	**ご利用のkintone環境のサブドメインを入力**　※cybozu.comはそのまま
スペース種別設定	スペースを選択。スペースIDにはkintoneの開発環境スペースのIDを入力
スレッドID指定	kintoneの開発環境スペースのスレッドIDを入力
kintoneユーザ名 / パスワード	**kintoneシステム管理者のアカウント情報**を入力
BASIC認証の設定	ご利用いただいている環境がBASIC認証が有効な環境の場合に入力

本番環境を開発環境の後にくるように作成します。

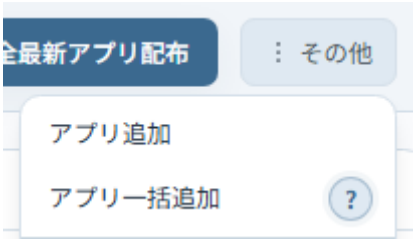
本番環境作成時「**前の環境**」で先に作成した開発環境を選択することを忘れないようにします。
この順番を間違えてしまうと変更ができず、再作成となってしまうため注意が必要です。
本番環境はゲストスペースで作成しているので、スペース識別指定でゲストスペースを選択します。
以下のような順番で作成できればOKです。



4-3. kintoneアプリを登録する

環境の作成が終わったらkintoneアプリを登録します。

アプリの登録は環境詳細画面右上のその他メニューから、個別にアプリを追加する方法と候補からアプリを選んで追加するアプリ一括追加の2つの方法があります。



個別にアプリを追加する方法

その他メニューから「アプリ追加」をクリックします。

kintoneアプリの登録には、そのアプリのアプリID（=appid）が必要です。

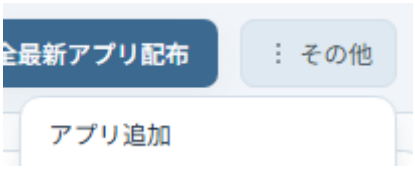
アプリID はkintoneのURLで確認することが可能です。

例）”https://xxxxxxx.cybozu.com/k/27/”のようなURLの場合：アプリIDは「27」となります。

kintoneアプリは開発環境スペースに作成しているので、開発環境に登録します。

プロジェクト詳細画面で開発環境を選択します。





以下の通りアプリIDを登録します。(kintoneアプリappId：確認したアプリIDを入力)



候補からアプリを一括追加する方法

その他メニューから「アプリ一括追加」をクリックします。



追加するアプリを選択して追加操作を行ってください。



今回アプリは2つあるので、それぞれ登録を行います。

最終的には以下のような形になるようにして下さい。



アプリが登録された時点から gusuku Deploit でフォームの設計情報が管理されることになります。

登録した段階でバージョンは「1」となります。

このバージョンを起点に「アプリの取り込み」や「配布」という作業が行われるごとに

バージョンが上がっていきます。

4-4. kintoneアプリを配布する（別環境への配布）

開発環境に登録したアプリを、gusuku Deploit を利用して本番環境に配布します。

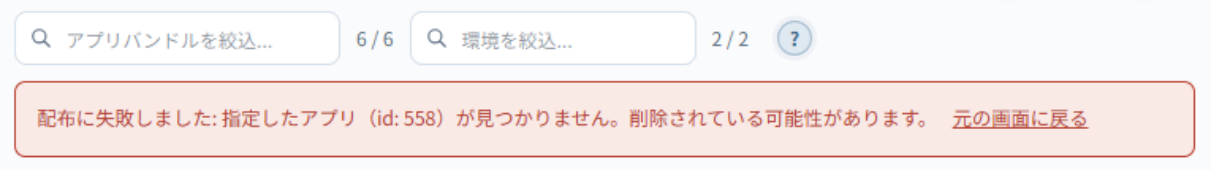
本資料で使用しているアプリは、以下のような連携構造となっています。

- **[1]顧客情報アプリ**：マスタアプリ
- **[2]案件管理アプリ**：[1]顧客情報アプリからルックアップで情報を取得
- ルックアップのキー＝顧客ID

ルックアップで連携しているアプリ配布時の注意点

ルックアップで連携しているアプリの場合は、配布する順番が重要です。

マスタアプリを先に配布しないと以下のようなエラーが発生します。



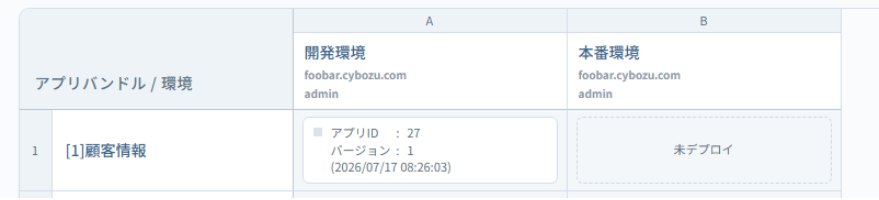
アプリの配布方法

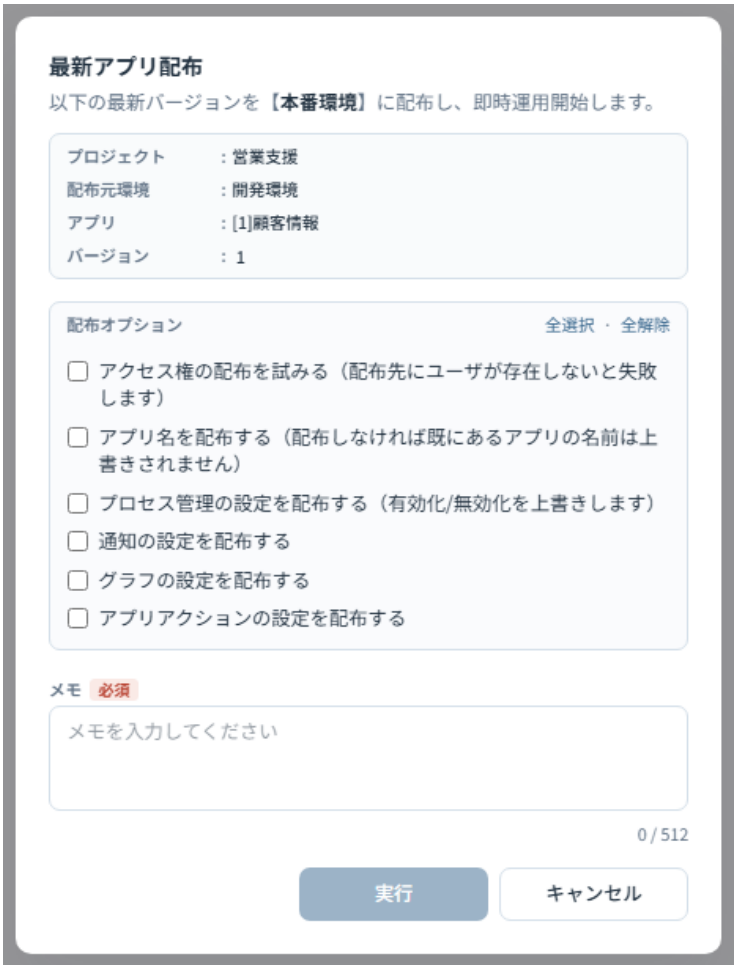
アプリを配布する方法は2パターンあります。

- プロジェクト詳細画面のマトリックス[1]上から直接配布する方法
- アプリの詳細画面からバージョンを指定して配布する方法

・マトリックス上から配布した場合

常にその時点で取り込まれている最新のバージョンで**「即時運用開始」（＝アプリがkintone上で公開された状態）**で配布されます。





[1] gusuku Deploit上にある管理されているアプリの相関表のこと

・アプリの詳細画面から配布した場合

「即時運用開始」にするかどうかを選択できます。







チェックを入れなかった場合は**「運用開始前」（＝アプリがkintone上で公開される前の状態）**となり、アプリは指定したスペース上には公開されません。

また**「運用開始前」**のアプリはkintoneのアプリ管理画面経由でしか確認が取れません。



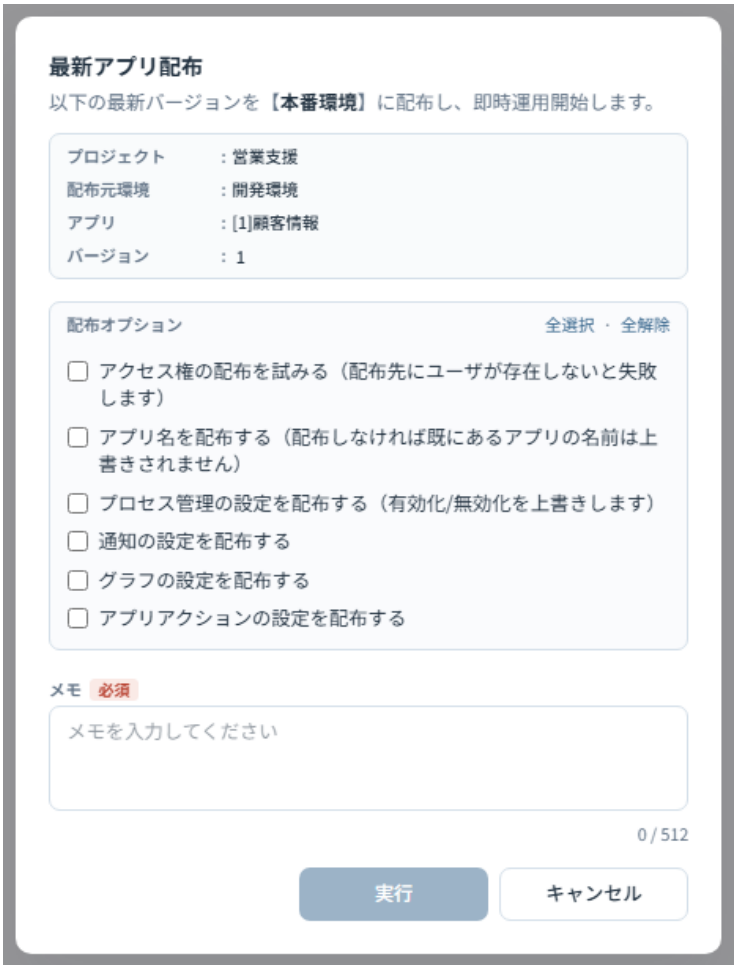
このような場合は、kintoneのアプリ管理画面から、該当のアプリの設定画面にアクセスし、画面右上にある「アプリを公開」のボタンをクリックしてもらう必要があります。



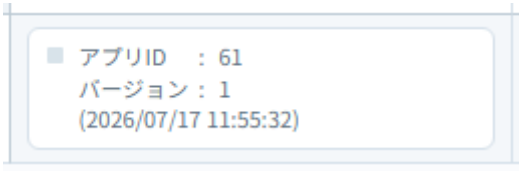
今回は初回の配布なので、マトリックス上から配布を行います。

マスタアプリである[1]顧客情報アプリを配布した後、[2]案件管理アプリを配布します。





配布の際、アクセス権・アプリ名・プロセス管理・通知・グラフ・アプリアクションの設定も一緒に移行することが可能です。配布時のダイアログでチェックを入れることで配布対象となります。



配布が完了すると「未デプロイ」と空になっていたスペースに新しいappidのアプリが生成されます。

kintoneにログイン後、本番環境にアクセスして、アプリが生成されていることを確認します。



今回はひとつのkintoneの中に開発環境・本番環境というスペースを分けて作成しましたが、

gusuku Deploitでは、**別々の契約（＝ドメイン）**をマトリックス上で管理することもできます。

別々の契約をマトリックス上で管理している例

	アプリバンドル / 環境	A **A社環境** a-company.cybozu.com admin	B **B社環境** b-company.cybozu.com admin
1	[1]顧客情報	アプリID ：27 バージョン：1 (2026/07/17 08:26:45)	アプリID ：201 バージョン：1 (2026/07/17 08:26:45)

このマトリックス上で並んでいるアプリであれば契約を越えて配布が可能となります。

今までであれば A.cybozu.com という契約でアプリテンプレートを作成して、 B.cybozu.com という契約でそのテンプレートからアプリを作る…というようにしていた人も、kintoneへのログインを行わずに A.cybozu.com から B.cybozu.com にアプリを配布できるようになります。

4-5. kintoneアプリを配布する（変更箇所を取り込んで反映）

開発環境の[1]顧客情報アプリ に**「顧客ランク」**というフィールドを追加して保存します。

設置する場所は任意でかまいません。



- フィールドタイプ： ドロップダウン
- 項目と順番＆初期値： 図を参照
- フィールドコード： フィールド名と同一

kintoneアプリの変更箇所を取り込む（アプリの取り込み）

kintoneの変更箇所は、アプリ詳細画面の**「アプリの取り込み」**という作業を行うことで gusuku Deploit で管理されるようになります。



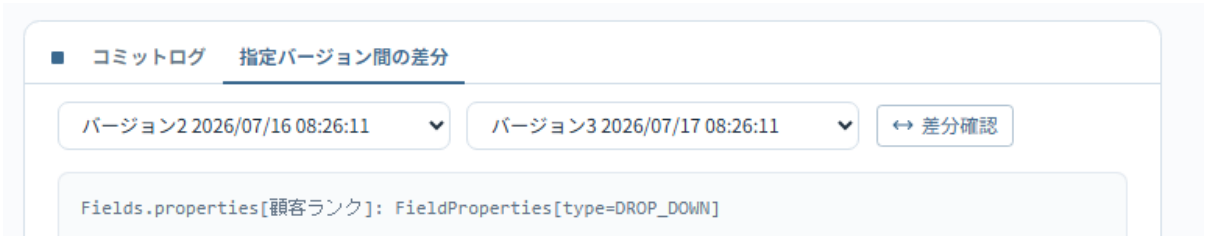
gusuku Deploit でアプリの詳細画面を開き「その他」メニューから「アプリ取り込み」をクリックします。



取り込む際にはメモの入力が必須です。

履歴として残るので、取り込み時点で行っている作業内容などを残しておくと良いでしょう。

取り込みを行って差分が発生している場合、図のように「指定バージョン間の差分」セクションに差分が表示されます。`Fields.properties[顧客ランク]: FieldProperties[type=DROP_DOWN]` が追加されたフィールドとなります。



前回取り込んだ時点から差分が発生していない場合は**「差異はありません」**と表示されます。

取り込みを行った変更箇所を含めたアプリ配布

詳細画面右上の「アプリ配布」ボタンをクリックしてダイアログを開き、

配布先環境で「本番環境」を選択し、配布バージョンを指定して「配布後に即時運用開始する」にチェックを入れた状態で「実行」をクリックします。



変更箇所が本番環境のアプリに反映されたことを確認

本番環境のアプリを確認して「顧客ランク」フィールドが設定されていることを確認します。

4-6. kintoneアプリを配布する（応用編 / アプリの紐付け設定）

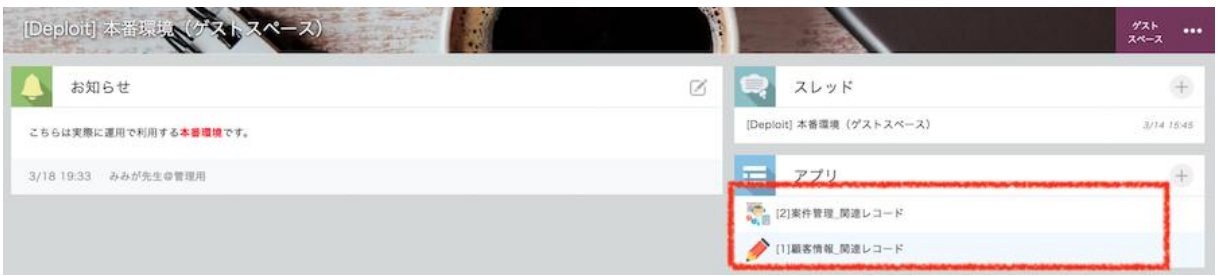
kintoneアプリの中には一方向のみの連携ではなく、ルックアップや関連レコードで相互に連携しているような構造のアプリも多く存在しています。
そのような構造のアプリの場合、 gusuku Deploit に1アプリずつ登録して配布や反映を行うと、相互連携が崩れてしまいます。
このケースに関しては、まずアプリテンプレートで別の環境にアプリを作成し、そのあと gusuku Deploit 上でアプリの紐付け設定を行うことで、管理を行うことができます。

以下の例では[1]顧客情報_関連レコードアプリ、[2]案件管理_関連レコードアプリという2アプリを使用しています。
アプリは、以下のように連携している構造となっています。

- **[1]顧客情報_関連レコードアプリ**：マスタアプリ
- 同時に、関連レコードで**[2]案件管理_関連レコードアプリ**から参照
- **[2]案件管理_関連レコードアプリ**：[1]顧客情報アプリからルックアップで情報を取得
- ルックアップのキー＝顧客ID

この2アプリを**開発環境スペース**と**本番環境スペース**のそれぞれに作成しています。
この時注意をしなければならない点は、開発環境で作ったアプリを**アプリテンプレート**にして、そのテンプレートを使用して本番環境にアプリを作成することです。





4-7. kintoneアプリの紐付け設定

gusuku Deploit でP7の「kintoneアプリを登録する」の手順に沿って、開発環境と、本番環境にそれぞれkintoneで作成済みのアプリを登録します。

ここのポイントとして、本番環境にアプリを登録する際、アプリ追加フォームの「詳細設定（アプリバンドルを指定する）」でkintoneアプリ紐付け設定を行う必要があります。



※　一括アプリ追加時も同様にアプリバンドルが指定可能です。

kintoneアプリ紐付け設定を行うことで、同じ構造のアプリと見なされ、その後のフィールドなどの変更の反映が gusuku Deploit 上で行うことができるようになります。

紐付け設定を行わずに登録した場合

アプリがマトリックス上で2段にわかれてしまい、別のアプリと見なされてしまいます。

この状態になってしまうと、変更の反映や配布を行うことができません。



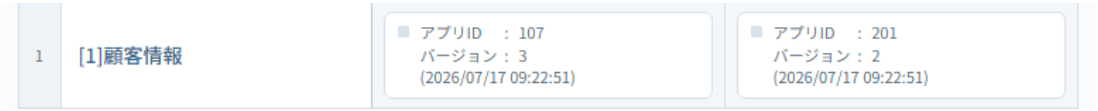
4-8. gusuku Deploit におけるアプリの管理構造

gusuku Deploit ではkintoneのアプリは**マトリックス**で管理されます。



アプリのフォーム設計情報はこの表上にある範囲で管理されます。

図の1行の中に並ぶアプリは**「異なる環境にある同じ構造のアプリ」**という扱いになります。



この1行に並んでいるアプリであれば、どの環境のアプリに対してもアプリの配布作業で変更を反映したり、このあとの資料にあるバックアップオプションを利用して取得したバックアップデータを取得元と異なる別環境のアプリに復元することも可能です。

アプリ管理・配布における注意点

- gusuku Deploit は契約プランごとに管理できるアプリ数に上限があります。
- アプリ数は、環境が異なるアプリはそれぞれ1アプリというカウントになります。
- gusuku Deploit からアプリの削除を行うと、それまで管理されていたバージョン情報、変更履歴はすべて削除されます。
- 登録し直すとその時点からの管理となります。
- gusuku Deploit のアプリ配布では、どのフィールドが追加・変更・削除されたかをフィールド名やフィールドコードなどの要素から総合的に類推する仕組みが採用されています。
- フィールドコードは、kintoneにおいてユニークな属性を持つ、カスタマイズなどを行う際にもその項目を特定するための非常に重要な情報です。
  そのためアプリ作成がある程度進んだ段階で変更や削除したりすることはお勧めしません。
  可能な限り運用前の開発の段階で、ある程度設計定義を行うようにして下さい。
- 途中でフィールドコードやフィールド名を既存のものとまったく異なる名称で書き換えられてしまった場合、gusuku Deploit 側で判別できず、最悪のケースとして項目が削除され中に入っているデータがなくなってしまう危険性もあります。
- ルックアップや関連レコードで双方紐付いているアプリを gusuku Deploit で管理する場合は、基本的には紐付いているアプリをすべて登録していただくことが賢明です。（アクセス権・プロセス管理の設定移行時）任意のユーザー / グループ / 組織単位で設定を行っている場合、配布先の環境にも設定と同じユーザー / グループ / 組織が存在していることが前提となります。
- ユーザー環境が一致していない場合、エラーとなり配布に失敗します。

4-9. 設計情報のダウンロード

アプリ単位でもう少しフォームの設計情報を詳しく見たいケースがあると思います。

- アクセス権がどのように設定されているか
- ルックアップや関連レコードでどのフィールドが紐付いているかなど

そのような場合に、gusuku Deploit を利用して、各アプリごとに**設計情報**というExcelファイルをダウンロードすることができます。

アプリの詳細画面から「その他」メニュー内の「設計情報DL」をクリックします。



ダウンロードしたExcelファイルを開いてみましょう。



フィールドコード	フィールド名	タイプ	表示順	テーブル	グループ	ラベル	必須	重複	最大長	最小長	最大値	最小値	デフォルト値	仕様
顧客ID	顧客ID	NUMBER	0			表示	必須	禁止				1		桁区切りを非表示,unitPosition=BEFORE
会社名	会社名	SINGLE_LINE_TEXT	1			表示	任意	許可						計算フィールドの計算式を表示
部署名	部署名	SINGLE_LINE_TEXT	2			表示	任意	許可						計算フィールドの計算式を表示
担当者名	担当者名	SINGLE_LINE_TEXT	3			表示	任意	許可						計算フィールドの計算式を表示
郵便番号	郵便番号	SINGLE_LINE_TEXT	4			表示	任意	許可						計算フィールドの計算式を表示
住所	住所	SINGLE_LINE_TEXT	5			表示	任意	許可						計算フィールドの計算式を表示
TEL	TEL	LINK	6			表示	任意	許可						protocol=CALL
FAX	FAX	LINK	7			表示	任意	許可						protocol=CALL
メールアドレス	メールアドレス	LINK	8			表示	任意	許可						protocol=MAIL
備考	備考	MULTI_LINE_TEXT	9			表示	任意	許可						
案件一覧	案件一覧	REFERENCE_TABLE	10			表示	任意	許可						
営業担当者	営業担当者	USER_SELECT	11			表示	任意	許可					{type=FUNCTION, code=LOGINU	entities=[]
顧客ランク	顧客ランク	DROP_DOWN	12			表示	任意	許可						options=[S,A,B,C]
従業員数	従業員数	DROP_DOWN	13			表示	任意	許可						options=[20名以下,20～50名,50～100名,100名以上]
地域	地域	DROP_DOWN	14			表示	任意	許可						options=[東京,大阪,関東(東京以外),近畿(大阪以外),北海道,東北,中部,中
業種	業種	DROP_DOWN	15			表示	任意	許可						options=[製造業,農林水産業,建築土木業,情報通信業,電気・ガス・水道業

一般情報 | フィールド | ルックアップ情報 | 関連レコード情報 | 一覧 | アプリのアクセス権 | レコードのアクセス権 | フィールドのアクセス権 | プロセス管理

フィールドの情報・ルックアップや関連レコード、アクセス権やプロセス管理などの情報も表示されます。